

シリーズ
学校最前線

「総合的な探究の時間」を軸にしたカリキュラム・マネジメントと関連単元配列表の作成

大阪府立東百舌鳥高等学校 稲川孝司



はじめに

高等学校の新学習指導要領は、令和四年度から年次進行で実施されますが、その中で注目すべき項目は探究的な活動とカリキュラム・マネジメントです。ここでは、高等学校での探究的な活動を説明し、その趣旨を生かすためにカリキュラム・マネジメントとしての関連単元配列表の作成を説明します。

一 探究的な活動

新学習指導要領では、小中学校での名称が「総合的な学習の時間」のままであるのに対し、高校では「総合的な探究の時間」に変更されています。学習指導要領解説編から引用すると、『小・中学校における総合

的な学習の時間の取組を基盤とした上で、各教科・科目等の特質に応じた「見方・考え方」を総合的・統合的に働かせることに加えて、自己の在り方生き方に照らし、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら「見方・考え方」を組み合わせさせて統合させ、働かせながら、自ら問いを見いだし探究する力を育成するようにした」とあるように、高校ではさらなる探究的な活動を求めているということです。

そして、総合的な探究の時間に加え、各教科においても科目名に探究を付した科目が設置されています。それらはいずれも探究的な資質・能力の育成を目標としていることもあり、教員も生徒も探究的な学びの本質をきっちり理解して、授業に臨

まなくてはならないということになります。

その探究的な活動の授業では、課題を設定し、情報を収集し、整理・分析し、まとめ表現する探究のプロセスを、スパイラルのように繰り返し実施していくことが求められています。

そこで、教員研修を実施し、全員で高大接続改革の主体性を評価することの背景とその意義、学びを促すためにポートフォリオを活用した主体性評価について理論を学び、理解を深めました(図1)。また、各教科においても、主体性・主体的な学びを評価するためのイメージを持ち、めざす学校・生徒像を見据えながら、ポートフォリオを活用した主体的な学びの評価についての議論を深めています。



図1 新学習指導要領の職員研修

二 総合的な探究の時間の先行実施

新学習指導要領は令和四年度から年次進行で実施されますが、一部は移行措置として先行実施できるので、本校では国研の研究指定校事業「総合的な学習の時間」に取組んでいることもあり、平成三十一年度入学生から総合的な探究の時間を先行実施しています。

授業を行うにあたり、新学習指導要領解説や国研の研究成果も取り入れながら、全体テーマ

として、

- 一、 自分自身を見つめる
 - 二、 他者との関わりを見つめる
 - 三、 社会・世界との関わりを見つめる
 - 四、 未来の社会を見つめる
- の四点を三年間の目標として掲げています。そして、探究課題として一年次「なりたい自分・理想の社会とは?」、二年次「持続可能な世界をどうつくるか?」、三年次「Work as Life」を設定しています。

三 カリキュラム・マネジメント

カリキュラム・マネジメントの定義を高等学校学習指導要領「総則」の第一款の五から引用すると『各学校においては、生徒や学校、地域の実態を適切に把握し、教育の目的や目標の実現に必要な教育の内容等を教科等横断的な視点で組み立てていくこと、教育課程の実施状況を評価してその改善を図っていくこと、教育課程の実施に必要な人的又は物的な体制を確保するとともにその改善を図っていく

ことなどを通して、教育課程に基づき組織的かつ計画的に各学校の教育活動の質の向上を図っていくことに努めるものとする』となっています。

さらに、第二款の「総合的な探究の時間」と関連を図るものとする、ということなので、各学校において「総合的な探究の時間」を中心に、各教科・科目等で身に付ける資質・能力について十分に把握し、関連を図ることが必要になります。

四 関連単元配列表の作成

総合的な探究の時間では、各教科・科目等で身に付けた資質・能力が存分に活用・発揮されることで、学習活動は深まりが見え、大きな成果を上げることができそうです。そのためにも、各教科・科目等で身に付ける資質・能力について十分に把握し、カリキュラム・マネジメントを行って総合的な探究の時間との関連を綿密に図ることが必要になってきます。

そこで、「関連単元配列表」を作成することにしました。こ



図2 関連単元配列表の検討

れは、総合的な探究の時間における単元と、各教科・科目等の単元を配置することに加え、相互に目標を関連させることで、一年間の流れの中で各教科・科目等との関連を見通した年間指導計画です(図2)。特に、単元名や学習活動だけでなく、育成を目指す資質・能力を記入し、それらを相互に関連させながら単元を並べることが大切で、そこから学習活動を充実させ、生徒の探究的な資質・能力を育成できると考えています。



図3 作成した関連単元配列表

五 まとめ

新学習指導要領実施に向け、研修を行い、組織的に活動し、関連単元配列表(図3)を作成できました。このことで、学校のカリキュラムは一部教員が作るものではなく、全員が協力して各教科と連携させて作成するものだという認識が教員にできました。今後、様々な学びが生まれ、生徒の中で「知の統合化」が起こるよう、教員として努力していきたいと思えます。